

屋根かけ完熟栽培による温州みかんの高付加価値化

【研究のポイント】

近年の重油価格の高騰により、ハウスマカンの加温栽培の継続が難しく、加温を休止したハウスが増加しており、その対策が急務であった。  
ハウスマカンで栽培されていた早生温州みかんに袋かけ、または屋根かけを行い、二つの方法を比較しながら越冬完熟させて高品質化を実証した。

【研究の成果】



袋かけ栽培



屋根かけ栽培

完熟栽培による糖度、果皮色の向上！

	完熟前(11月)	完熟後(1月)
Brix	12.9	14.0
果皮色(a*値)	28.1	29.8

果皮障害(雨水の浸入によるもの)発生率

袋かけ	屋根かけ
10.7%	2.0%

作業時間(3人あたり)

袋かけ	屋根かけ
342.8果/60分	1358.5果/60分

**屋根かけ栽培は、果実障害果の低減と作業時間の短縮に有効**

【生産者の声】



JAおおいた 杵築選果場  
指導員 宮崎賢二さん

この技術の導入により、かなりの省力化が図られるようになりました。越冬完熟物の取引価格は通常ミカンの3倍以上になりますので、一層の拡大を目指します。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム  
TEL：0978-72-0407  
住所：国東市国東町小原4402

